

成績優秀者が沖縄でホームステイを体験

共立財団日語学院では、成績優秀な生徒は、学校の補助を受けて、一般財団法人共立国際交流奨学財団主催の研修会に参加することができます。今回、下記のプログラムに1名が参加しました。

参加プログラム：一般財団法人共立国際交流奨学財団 第63回研修会

研修先：沖縄県（東村）

研修会期間：2011年9月5日(月)～10日(土) 5泊6日

参加者氏名：韓 在雲

韓さんの感想文

9月5日に沖縄へ旅行に行きました。沖縄はとてもきれいな島です。私は青い海と緑の植物に囲まれて、沖縄の自然に酔いしれました。

那覇空港について、すぐにリッチモンドホテルに向かいました。ホテルの部屋は清潔感があって、とてもきれいでした。荷物を置いて、近くにある「沖縄美ら海水族館」へ見学へ行きました。さすが世界最大級の水族館です。海洋生物の種類が数えきれないほど多かったです。海洋の生き物は何と不思議なものでしょう。人間の目と同じくらいの海洋生物もいれば、人間の体の何倍



もの大きさのものもあります。やはり地球で海が広いから、そして巨大な魚はその海で自由だから、人間と別世界で生きているのでしょう。もっと記念写真を撮れば良かったと思います。水族館から出て、オキちゃん劇場に行きました。イルカの演技は素晴らしかったです。イルカの優れた知能と運動能力を目にして、イルカは本当にお利口で、人間の友達だと思いました。終わると、もう夕方でした。ホテルに戻って、プールを体験して、ゆっくり休みました。

次の日は沖縄の北部にある「東村」に向かいました。これからの2日間は、ホームステイの体験と農業の体験でした。ホームステイのお母さんは本当に温かい人です。毎日料理をたくさん作ってくれて、沖縄農業の特色を紹介してくれて、ありがたかったです。

都会で育ってきた私からすると、畑の仕事は本当に大変でした。猛暑にかかわらず畑の仕事を続けている農家の方たちは違うと思いました。この2日間の間に、草取りの仕事を中心として、パイナップルの葉を取る仕事と農作物に水をあげる仕事をしました。農業の仕事を通して、沖縄の農業の特色がわかりました。それは自然環境と生態と尊重しながら開発しているのです。



最後の2日間は、南部に戻って、北谷のホテルに泊まりました。北谷は活気のある街です。昭和56年にハンビー飛行場跡地の返還をきっかけに、郊外型大型店を中心とした街が造られました。私はこの辺が大好きです。この辺りのアメリカタウンは賑やかな所です。買い物できるし、遊び物もいっぱいあります。海はすぐ近くです。初めて海を身近に感じるので、待ちきれないほど心待ちに水着を着替えて、海の中に入って、とても楽しかったです。海の中で楽しみながら美しい海岸線を見ていると、とても疲れ



れが取れました。夕方、散歩しながら夕日を見て、日差しは神様の恵みとも、心が落ち着ける光とも言え、人間は大自然ともっと親しんだ方がいいと感じました。その認識は沖縄生態農業を体験したおかげです。「共存」という言葉の意味が前より深くわかりました。

沖縄の研修は本当にいい体験でした。沖縄は天国と言っても言い過ぎではありません。皆に観光に行ってほしいです。きっと成長できると思います。

